

## 「構成的グループエンカウンターとは何か」

担当：Chie

### 1. 定義と目的

「エンカウンター」とは・・・「出会い」・「ホンネとホンネの交流」

「構成的グループエンカウンター」とは？

<b>構成的</b>	+	<b>グループ</b>	+	<b>エンカウンター</b>
(Structured)		(Group)		(Encounter)
枠を与える (人数・ねらい・時間など)		集団		出会い、ホンネとホンネの交流

#### 《 定義 》

「グループ体験を教師が意図的に組織し(=構成的) ホンネとホンネのふれあいによる人間関係を通して、今まで知らなかった自分や他者に出会うための教育技法」

#### 《 目的 》

「構成的グループエンカウンター(SGE)は、ふれあい(ホンネとホンネの交流)と自己発見(自他の固有性・独自性・かけがえのなさ)を目標とし、個人の行動変容を目的としている」

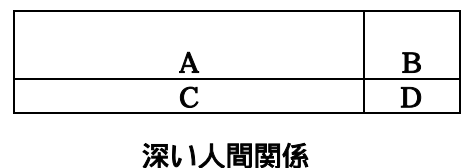
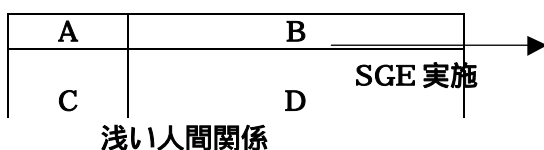
〔 集団内にリレーションを作ること  
\* リレーション：お互いに相手を尊重しながら、感情交流ができる関係  
人々が自己発見をすること

#### 自己発見とは？

今まで気がつかなかったか、気づいていても表現できなかった自分をオープンにしていくプロセス

\* 「ジョハリの窓」: 自己ならびに他者から見た自己の領域を表す概念(ジョセフ&ハリーが提唱)

	自分が知っている自分	自分が知らない自分
他者が知っている自分	A 自他共にオープンな領域	B 人に指摘されるまでは気づかない自己盲点の領域
他者が知らない自分	C 人に隠している秘密の領域	D 自分には分からない無意識界



### 2. SGEの展開

4つの柱に沿って展開する

(1) **インストラクション**・・・目的・やり方・ルールを教示すること

**ポイント!**

SGE の効果に大きく影響  
どんな導入ならモチベーションは高まるか？  
どうやって心的外傷を防ぐか  
どういうグループ分けが適切か

(2) **エクササイズ**・・・心理的成長を促進するための課題

- \* 「構成」=「枠」を伴う理由  
不安・緊張から解放される  
枠があるからこそ自由に動ける。作業しやすい。素直な自己開示ができる。

ねらい 次のように分類される

自己理解・・・私ってこういう人間なんだなあ  
自己受容・・・短所・欠点もあるけれど、でもわたしにもいいところがある  
自己主張・表現・・・自分の気持ちを上手に相手に伝える  
感受性の促進・・・相手の気持ちを察知して行動する  
信頼体験・・・自分を信頼する・他人を信頼する体験  
他者理解・・・相手のことを受け入れる。よさを認める。

(3) **介入**・・・エクササイズ中の子どもの心的外傷を防ぐ

(4) **シェアリング**

エクササイズを通して気づいたこと、感じたことなど、自分の中に生まれた感情や考えを、自分自身の中で、そして他のメンバーとホンネで語り合う。  
言葉で表現することは体験を意識化することになり、その場限りの体験で終わらずにすむ。

### 3. SGE 実施上の留意点

- (1) なぜやるのかというねらいを明確に  
・ インストラクション・・・エクササイズのねらい、やり方の説明、ルール確認、参加の確認などを「簡単明瞭」に伝える。
- (2) 実態に応じたエクササイズのアレンジを  
・ 子ども集団の実態に応じたエクササイズの選定とアレンジ  
・ 教師自身が体験していること・・・よさと難しさの体験
- (3) エクササイズのやりっぱなしにならないように  
・ 「エクササイズ」「エンカウンター」・・・エクササイズはエンカウターの「触媒」  
・ シェアリングを大切に・・・子どもたちの実態に応じて工夫を

#### 引用・参考文献

- ・ 國分康孝・國分久子(2004) 「構成的グループエンカウンター事典」 図書文化
- ・ 國分康孝(1996) 「エンカウンターで学級が変わる～小学校編」 図書文化
- ・ 國分康孝(1997) 「エンカウンターで学級が変わる Part 2～小学校編」 図書文化
- ・ 曾山和彦(2002) 「グループエンカウンターとは何か」 学習会初参加用資料
- ・ 佐藤さゆ里(2002) 「構成的グループエンカウンターについて」 2002年第1回県南学習会資料